

平成 19 年 6 月 1 日

各 位

会 社 名 株式会社夢真ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長 佐藤 眞吾
(コード番号 2362 大証ヘラクレス)
問 合 せ 先 執行役員経理部部长 青木 由行
(TEL 03-3580-5434)

平成 19 年 9 月期業績予想 (連結・単体) の修正に関するお知らせ(追加)

平成 19 年 5 月 31 日に公表しました平成 19 年 9 月期(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)の業績予想の修正に関し、下記の通り追加公表いたします。

記

1.平成 19 年 9 月期中間単体業績予想の修正(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)
(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	530	410	820
今回修正予想(B)	522	33	10
増減額(B-A)	8	443	830
増減率(%)	1.5	-	-
前期(平成 18 年 9 月期中間)実績	589	169	19

(尚、平成 19 年 5 月 31 日公表数字と変わりありません。)

2.平成 19 年 9 月期通期単体業績予想の修正(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)
(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,070	430	810
今回修正予想(B)	1,220	378	31
増減額(B-A)	150	808	779
増減率(%)	14.0	-	-
前期(平成 18 年 9 月期)実績	1,092	237	56

(尚、平成 19 年 5 月 31 日公表数字と変わりありません。)

3.平成 19 年 9 月期中間連結業績予想の修正(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)
(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	33,100	200	970
今回修正予想(B)	31,698	636	104
増減額(B-A)	1,402	436	1,074
増減率(%)	4.2	218	-
前期(平成 18 年 9 月期中間)実績	24,735	1,369	551

(尚、平成 19 年 5 月 31 日公表数字と変わりありません。)

4. 平成 19 年 9 月期連結業績予想の修正（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）
（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	56,000	1,400	2,000
今回修正予想（B）	42,609	1,529	702
増減額（B - A）	13,391	129	1,298
増減率（％）	23.9	9.2	-
前期（平成 18 年 9 月期）実績	41,554	1,286	69

（尚、平成 19 年 5 月 31 日公表数字と変わりありません。）

5. 業績修正の理由(追加)

(1) 単 体

中間期

イ. 経常利益の差異（+443 百万円）

前回予想では、借入金の借替えに伴う金融コスト、及び投資有価証券の売却損を営業外費用として見積り、経常損失を見込んでおりましたが、金融コストの圧縮に努め、86 百万円の削減となった他、表示方法の変更により投資有価証券の売却損 330 百万円を特別損失に計上することにより、経常利益の差異が生じております。

ロ. 当期純利益の差異（ 830 百万円）

特別利益の 2,170 百万円は株式会社夢真総合設備の株式売却益等で、予想通りでした。しかし、特別損失で、前述の投資有価証券売却損 330 百万円の他に、今回グループ再編にあたり、各資産を保守的に精査した結果、子会社株式評価損 806 百万円、未上場の投資有価証券評価損 243 百万円、及び、子会社等への貸付金に対する引当金として 536 百万円など、合計 1,966 百万円の特別損失を計上し、予想より 1,630 百万円増の損失を計上しております。しかしながら、法人税等の算定において、税効果等、慎重に検討した結果、予想より 357 百万円の減額となる見通しです。

この結果、当期純利益では、前回予想に比べ、経常利益で +443 百万円、特別損益で 1,630 百万円、法人税等で +357 百万円となり、合計 830 百万円の減少となりました。

通期

イ. 売上高の差異（+150 百万円）

売上高は売却済みの子会社からの経営指導料は減少するものの、順調に推移している人材関係会社からの経営指導料及び配当等により、ほぼ予想通りの売上高を見込んでおります。

ロ. 経常利益の差異(+808 百万円)

前述の中間期の差異 +443 百万円に加え、販管費の圧縮を 365 百万円見込んでおります。特に一般経費を減らすと共に、M & A 案件の取扱い縮小による諸手数料の削減により、経常利益は予想より 808 百万円の増加を見込んでおります。

ハ. 当期純利益の差異（ 779 百万円）

当期純利益としては、既に引当て済みの子会社株式の売却等を進めており、中間期と同水準の特別損益及び、法人税等を見積もっております。この結果、前回予想に比べ大幅な減少を見込んでおり、中間期と同水準の 779 百万円を予想しております。

(2) 連結

中間期

イ．売上高の差異（ 1,402 百万円）

当中間期は株式会社夢真などの人材関係会社は好調に推移しておりますが、不動産・建設系会社及びその他事業関係会社の業績が軟調なため、売上高は予想比 1,402 百万円の減少となりました。

ロ．経常利益の差異（ +436 百万円）

前回予想との差異につきましては、単体（中間期）と同じ理由により、ほぼ同金額の差異となりました。

ハ．当期純利益の差異（ 1,074 百万円）

前回予想との差異につきましては、単体（中間期）と同じ 830 百万円に加え、株式会社夢真総合設備の売却に伴う連結決算上の売却益の修正等により更に 240 百万円悪化し、結果として予想に比べ上記 1,074 百万円の差異となりました。

通期

イ．売上高の差異（ 13,391 百万円）

株式会社夢真総合設備、勝村建設株式会社、その他子会社の売却により、売上高は大幅に減少する見込みです。

ロ．経常利益の差異（ +129 百万円）

中間期と同様の理由により約 430 百万円は良化するものの子会社売却に伴う経常利益の減少約 300 百万円を織り込み予想に比べ、129 百万円の良化を見込んでおります。

ハ．当期純利益の差異（ 1,298 百万円）

中間期と同様の理由により、予想比約 1,100 百万円の差異を見込んでいる他、下期に新たに整理した子会社株式の売却損約 200 百万円を見込み、当期純利益としては前回予想に比べ約 1,300 百万円の損失増加を見込んでおります。

以上